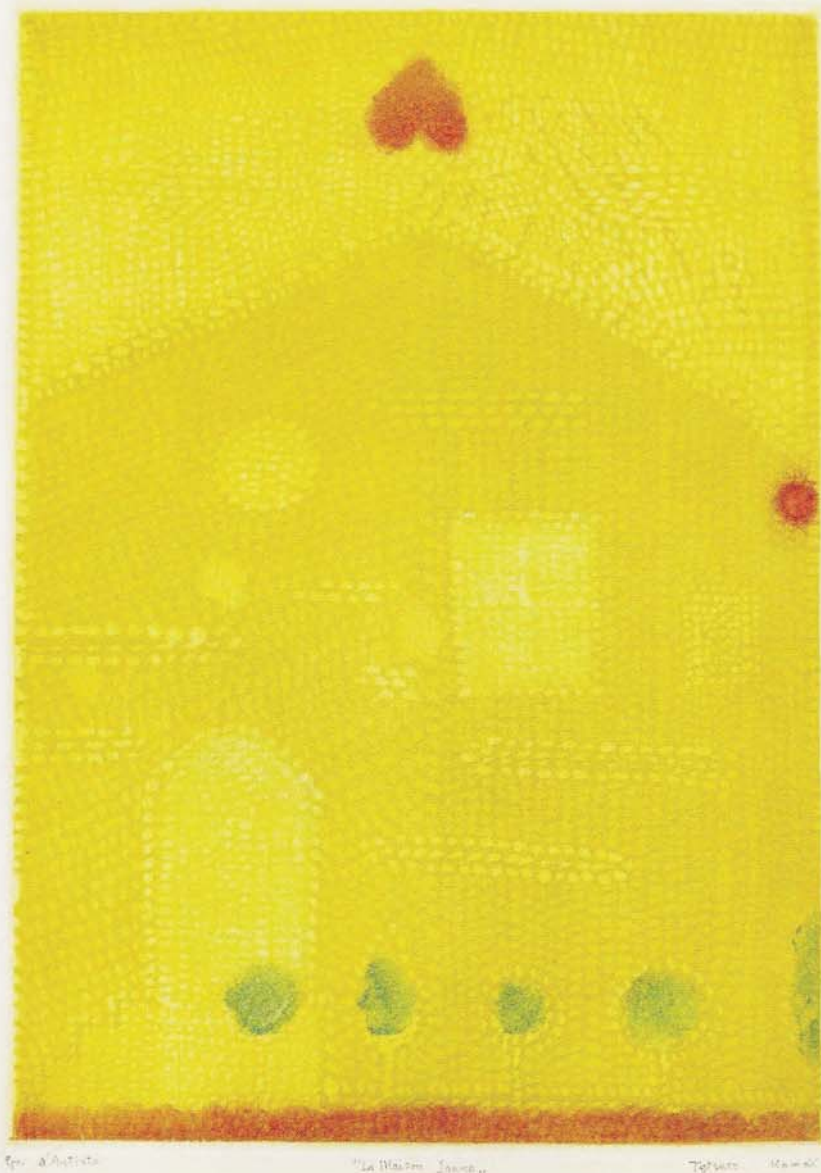


# 駒井哲郎 1920-1976

—こころの造形物語—  
Tetsuro KOMAI Retrospective

夢と現実、すべてが私にとっては夢でもあり現実でもあるのだ



《La Maison Jaune (黄色い家)》1960年 ディープ・エッチング、アクアチント  
福原コレクション(世田谷美術館寄託) ©Yoshiko Komai 2011/JAA1100007

第I部・第II部、総入れ替えで約500点。すべてを見ずにはられない。

2011年 4月9日(土) - 6月12日(日)

[第I部] 4月9日(土) - 5月8日(日) / [第II部] 5月11日(水) - 6月12日(日)

開場時間=火~金 午前10時~午後5時(入場は午後4時30分まで) / 土・日・祝 午前10時~午後5時30分(入場は午後5時まで)  
休館日=月曜日、ただし5月10日(火)は展示替えのため閉室

**町田市立国際版画美術館**

<http://hanga-museum.jp> (3月1日新規スタート)

主催:町田市立国際版画美術館、東京新聞 協賛:資生堂

観覧料=一般 800(700)円、大学生・高校生 600(500)円、65歳以上 400(300)円、中学生以下無料

\* ( )内は20名以上の団体料金 \* 身体障がい者手帳または愛の手帳等をご持参の方と付き添いの方1名は半額

\* 展覧会初日4/9(土)と開館記念日4/19(火)は観覧無料

第I部・第II部 セット券割引

第I部展示期間中、第I部・第II部の観覧券をセットにして割引価格で購入いただけます。  
一般 1,600円→1,200円 大学生・高校生 1,200円→900円 65歳以上 800円→600円

駒井哲郎(1920-1976)は見えるものを描いて、見えない心の内を表現することを追求めた銅版画家でした。夢と現実の織り成すその表現は、見る者を空想の世界へと誘ってくれます。しかし、駒井が銅版画に描き出したイメージは、決して非現実的なものだったわけではありません。その表現世界は、人生への懐疑や日常の憂鬱感、ひそやかな期待や心の高揚感といったきわめて切実で真摯な、内なる心の状態の現われていた。それはまた、目を閉じた時に顔の裏に微かに浮かぶ光の造形や、日常の中で目にした現実としての幻影でもあったのです。駒井はそういった心の眼で見た現象や現実を、鋭い感性と熟達した技術によって銅版画へと移し変えることに成功した、稀にみる才能豊かな芸術家でした。

本展覧会ではそうした駒井の創造した世界を、資生堂名誉会長の福原義春氏が蒐集した、約500点という一級の大コレクションによって、全作品総入れ替えの2部構成でご覧いただけます。慶應中学時代に制作した初期作品から、ルドンやクレーを解釈しながら独自の表現を生み出した1950年代の作品を経て、晩年、病に侵され、その心情を痛切に表現して終わる創造の軌跡をじっくりとご堪能ください。

[第Ⅰ部] 4月9日(土)ー5月8日(日)  
1章 銅版画への道(1935-1948頃)  
2章 夢の開花(1948-1953)  
3章 夢の瓦解そして再生(1954-1958)  
4章 充実する制作:詩画集「からんどりえ」まで(1959-1960)

[第Ⅱ部] 5月11日(水)ー6月12日(日)  
5章 新たな表現を求めて(1961-1966)  
6章 充実の刻(1967-1970)  
7章 未だ見果てぬ夢、色彩の開花(1971-1973)  
8章 白と黒の心象風景と乱舞する色彩(1974-1976)

Tetsuro KOMAI Retrospective



《船着場のある風景》1935年 エッチング



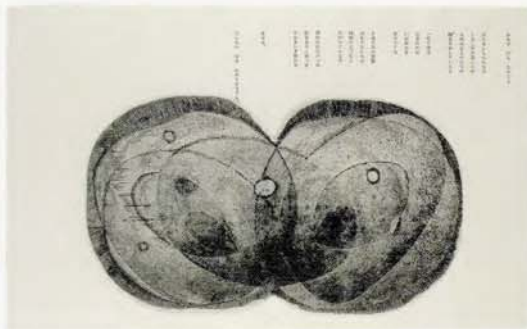
《東の間の幻影》1951年 サンドペーパーによるエッチング



《月の兎》1951年 アクアチントほか



《garçon(少年)》1958年頃 アクアチントほか



『からんどりえ』より《Jin「球根」たち》1960年  
サンドペーパーによるエッチングほか

\*作品はすべて福原コレクション(世田谷美術館寄託) ©Yoshiko Komai 2011/JAA1100007

駒井哲郎 1920-1976  
—こころの造形物語—



《庭の小さい虫》1961年 エッチングほか



《R夫人像》1970年頃 アクアチントほか



題名不詳 1971年頃 モノタイプ



《花》1974年 モノタイプ

[関連催事]

- 講演会(手話通訳付)
  - ①福原義春氏(資生堂名誉会長、本展覧会出品作品所蔵者)  
4月23日(土)
  - ②堀江敏幸氏(作家、早稲田大学文学学術院教授)  
4月30日(土)
- いずれの回も、午後2時-3時30分 会場:美術館講堂  
\*入場無料、ただし企画展ご観覧の方が対象です
- 駒井哲郎愛用のプレス機を使ったデモンストレーション  
実演:渡辺達正氏(版画家、多摩美術大学教授)  
5月4日(水・祝) 午後2時-3時 会場:2Fロビー(見学自由)
  - モノタイプで遊んでみよう!  
6月4日(土) 午後1時-3時(制作時間15分程度)  
会場:1F エントランスホール \*申込不要\*先着順  
\*子どもから大人まで楽しく遊べます  
\*小学生以下は要保護者同伴

- 館長によるスペシャル・ギャラリートーク  
4月16日(土)、5月21日(土) 午後2時より45分程度  
\*観覧券が必要です
- 学芸員によるギャラリー・トーク  
4月10日/24日、5月1日/15日/29日、6月12日 各日曜日  
午後2時より45分程度 \*観覧券が必要です
- 美術館で語りあおう〜トークフリーデー  
展覧会初日を除く水、土曜日  
「鑑賞のための静けさ」よりも作品をめぐる会話を楽しんでいただくという試みです。小さなお子さま連れの方も気兼ねせずにご入場ください。



町田市立国際版画美術館

〒194-0013 東京都町田市原町田4-28-1 Tel.042-726-2771・0860 \*小田急線・JR横浜線 町田駅より徒歩15分

[常設展示室]「西洋版画の世界—駒井哲郎の視点」4月6日(水)ー6月12日(日)